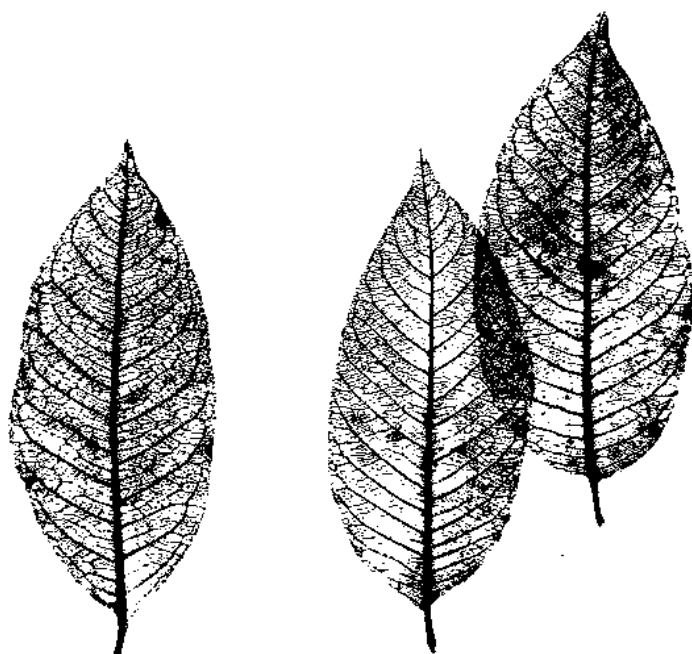


井形慶子
igata keiko

なぜかオトコ運の
いい女性ひと 悪い女性ひと




知恵の森文庫



うん ひ と わる ひ と
なぜかオトコ運のいい女性 悪い女性
いがたけい こ
井形慶子

2003年5月15日 初版1刷発行

2003年7月25日 3刷発行

発行者—加藤寛一

印刷所—萩原印刷

製本所—フォーネット社

発行所—株式会社光文社

〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6

電話 編集部(03)5395-8282

販売部(03)5395-8114

業務部(03)5395-8125

振替 00160-3-115347

© keiko IGATA 2003

落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。

ISBN4-334-78222-1 Printed in Japan

因本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

なぜかオトコ運のいい女性 悪い女性

井形慶子

光文社

はじめに

「ダメな男ばかり愛してしまうのはなぜか」

「いい人がちつとも現れないのはなぜか」

「オトコ運にめぐまれないのはなぜか」

私が結婚雑誌の編集長という立場から長年、たくさんの人たちと会って恋愛や結婚について話をするなかで、いつも話題になるのがこれらの疑問でした。

そして、かつての私もこれらの疑問に、ことあるごとに突き当たっていたのでした。

私自身、一〇代の頃から現在までたくさんの男性と出会いました。二〇代の頃までは恋をするたび「ああ、この人が運命の人だったんだ!」と好きになった男性との未来をドラマチックに思い描いてみたのですが、これがどうしても、予想外の結果に終わることが結構多かったのです。

そのたびに「私はついていない」「男を見る目が甘かった」と反省するのですが、こり

もせず、また人を好きになるのです。なぜか今に至るまで私の周りは常に魅力溢れる男性が存在するので興味を持って眺めているうちに、それが好意となって伝わってしまうのが恋多き原因かもしれません。

ところが、好きになった相手が必ずしも運命の人ではない。時には好意をもった相手が、とてつもないダメージを与えることもあるということを、私は自分の経験のなかで知るようになってきました。

好きになるということは自分自身から発する感情です。だからといって、あなたが好きになった男性が、あなたを同じ熱意で好きになるかは分かりません。しかし、結果をおそれ、好きの気持ちをカモフラージュしたり、隠すことはよくありません。

恋愛には本物とフェイクがあります。言い換えれば、自分に素直である恋愛か、ウソをついている恋愛か、を見きわめることが大切なのです。

相手を好きだと思ふあなたの心に混ざりものや異物が入っていないこと。相手の長所や短所も見据えた上で、やはり必要だと思える男性かどうか。また、その人とならなぜ幸せに豊かになれるのかという未来図を自分で描けること——つまり、好きになった男性に確信が持てるかどうか。確信を持ち続けられるとすれば、その恋は本物に育ったということでしょう。同棲でも結婚でも思い通りのステップを踏んでもっと幸せを追求すべきです。

一方、オトコ運のない女性はこの見きわめができないのです。あるいはフェイクの恋愛とうすうす感じていても「進んじゃえ！」と男性に対しても見切り発車してしまうのです。それが当たり前になってしまつてしまうと、いつまでも不確かな男性との関係を作り続けることになります。

私はたくさんの恋愛と二度の結婚を経験しました。それだけ、たくさんの失敗を重ねてきたということになります。失敗するたびに「自分はツイていないんじゃないか」「男を見る目がないんじゃないか」とおびえ続けてきました。この不安は、誰でもおぼえがあるものと思います。しかし私はそのたびに、「次はうまくやろう」「今度の相手には違うアプローチでやってみよう」と考えてきました。そのような自分なりの経験と思い、そして数々の人々からの話から、恋愛に関するヒントをこの本にあらわしてみました。

「オトコ運など、人によつて『大した差』があるわけではない」誰よりもオトコ運に自信のなかった私が今、言えるのはこのことです。もっと言うならば、

「オトコ運は自分の手の中にある」ということです。ちよつとしたきっかけや行動で恋はどうにでもなるものです。

オトコ運のよし悪しがうまくいかない恋の理由にはなりません。出会いは自分を映す鏡

といわれています。今、目の前にいる男性があなたの分身なのです。もしその人がもの足らない男性だとしたら……。

ここからはどうぞ本書を読んでください。きっと、あなたの恋のゆくえや出会いにいくつかの答えが見つかるはずです。読み終えた時、そんな力が生まれれば著者として嬉しい限りです。

目 次

はじめに 3

第1章 ♥ オトコ運の悪い女性には理由がある

他人だけが知っている「私」 14

恋人に何を求めようとするのか 27

「愛さなければ、愛されない」という法則 33

美人に恋人ができにくい理由 38

「惚れっぽい女」という言い訳 44

テレビのスイッチを消すことから始まる 50

相手の気持ちを確認しようとする図々しさ 55

「フラれたらカッコワルイ」をのりこえる 61

第2章 ♥ 男の心を開くための6つの鍵

①〈会 話〉男はほめ言葉に飢えている 68

②〈印 象〉男は見かけだけで相手を選んではない 74

③〈関 係〉男は意味もなく「頼りたい」とは思っていない 81

④〈贈り物〉お金をかけなくても、相手を喜ばせるプレゼント 86

⑤〈料 理〉手料理はたったひとつ実現できる恋の魔法 92

⑥〈表 情〉言う内容はもちろん、言う顔つきが大事 98

第3章 ♥ 男の立場を知るともつとうまくいく

最初のデートで「また会いたい」と思わせる秘策 104

「ケチな男」と「貧乏な男」、あなたの投資は間違っていないだろうか 109

男のグチはそつと聞いてあげた方がいい 114

仕事に励まない男についていってはいけない 119

男の失敗を絶好のチャンスに変える 124

男の「子供っぽさ」を認める余裕を持つ 129

第4章 ♥ 愛してはいけない男 8つのタイプ

①同性の友だちのいない男——振り回されて消耗する破目になる 136

②マザコン、酒乱、暴力男——家族関係と部屋の様子で判断する 141

③「忙しい」を連発する男——いい加減さの裏返しと見抜く 147

④スケールの小さい男——劣等感から解放させるしか手だてはない 153

⑤自慢話ばかりしたがる男——直言して変わらないなら距離をおく 157

⑥すぐに「好きだ」という男——責任感と主体性のなさを突きとめる 163

⑦すぐにものを壊したり、なくしたりする男——自分まで乱雑に扱われる 169

⑧身内や弱者を大切にしない男——自分の将来を想像してみる 174

第5章 ♥ 幸せな結婚を手に入れるために

不幸な結婚をした人に共通するもの 180

仕事と生活のバランス関係 186

夫婦になってから直面するお金の問題 193

家庭生活に不向きな男がいることを知っておきたい 199

結婚したら、これだけは絶対にしてはいけないこと 206

「続く愛」「続く結婚」に必要なもの 211

あとがき 217

文庫版あとがきにかえて 221

第1章



オトコ運の
悪い女性には
理由がある

他人だけが知っている「私」

私は一二年間、人との出会いをテーマにした月刊誌「ミスター・パートナー」の編集長を務めてきました。この雑誌はかつて「出会い情報誌」「結婚専門誌」とも言われ、独身の人からすでに結婚した人までが一緒に理想の結婚を考え実現するための雑誌でもあったのです。

この雑誌の創刊のきっかけをよく聞かれるのですが、正直に説明すると、「私に強烈な結婚願望があったから思いついたのです」の一言につきます。

「ミスター・パートナー」を創刊する前、私は「HIRAGANA-TIMES」という外国人向け雑誌の編集長でした。

そして、二八歳のその頃、私の人生は四方八方を壁で囲まれたように暗く、見通しのたないものでした。一度目の結婚は二五歳で終了。一歳になったばかりの娘を連れた私は、ふたたび「結婚難民」となったのでした。ところが難民でも、いつも気持ちは張り切って

いましたから不思議です。

よく離婚した女性が、「もう二度と結婚はしたくない」と断言するのを聞きますが、私はそうは思いませんでした。つまり、

「たまたま一度目の相手は一緒に家庭を築くのに私と合わなかっただけ。組み合わせによっては、次の結婚はきつとうまくいくはず。そんな相手を私が探せばいいだけのこと」そんなことを毎日、真剣に考えていました。

結婚願望が生み出す恐怖

ふりかえってみると、私は中学生の頃から、二〇歳^{はたち}を過ぎたら恋をして、結婚しようと思っていました。まだ一二歳くらいで結婚願望を強烈に持っていたというのは、今にして思えば、先天性の「おいてきぼり恐怖心」が強かったからだと思うのです。

つまり、こんなに恋愛願望や結婚願望が強くて、容姿も背が低いところを除くとまあまあだし、性格も悪くはない。だけど、私にはなぜか、すばらしい男性との恋がめぐってこないような気がしていました。適齢期になったら同級生からだし抜かれて、私一人結婚できないような気がしていました。将来つき合うであろう男性は、どこかに欠陥のある問題アリの男性のような気がしていました。自分に本物の幸せなんかめぐってこない、そんな